

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(46)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(46)—

1. 始めに

前報(45)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回もピアノ協奏曲です。

CBS SONY 28AC 4744

モーツアルト ピアノ協奏曲 15 番変ロ長調

ピアノ協奏曲 16 番ニ長調

マレイ・ペライア (ピアノ)

マレイ・ペライア指揮イギリス室内管弦楽団

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

CBS SONY 盤ということで、Columbia、逆相、第4時定数 Low で聴いていきます。

若い頃のペライアの弾き振りの演奏で、ペライアの演奏は情緒に流されず、端正ですが、かっちりした構成で勢いのある演奏です。

イギリス室内管弦楽団もペライアの指揮に応じて軽快に爽やかな演奏で進行します。

3. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E の導入の交換などの総

合的な効果として、ペライアとイギリス室内管弦楽団のコンビの音楽の構成の進め方がよく分かりました。

以上